



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	76,569	0.4	2,111	82.7	2,568	55.7	1,543	41.1
26年3月期第3四半期	76,274	2.1	1,155	△9.5	1,649	16.1	1,094	82.3

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 1,823百万円 (69.2%) 26年3月期第3四半期 1,077百万円 (63.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	63.63	—
26年3月期第3四半期	45.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	66,838	36,052	53.9	1,485.81
26年3月期	63,501	33,965	53.5	1,399.72

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 36,052百万円 26年3月期 33,965百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
27年3月期	—	7.50	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成27年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当6円50銭 記念配当1円00銭（創業90周年記念配当）

平成27年3月期期末配当金（予想）の内訳 普通配当6円50銭 記念配当1円00銭（創業90周年記念配当）

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	104,700	0.9	2,300	20.6	2,400	△0.7	1,400	245.7	57.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名） ー 、除外 ー社 （社名） ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	27,700,000株	26年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	3,435,746株	26年3月期	3,434,022株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	24,264,841株	26年3月期3Q	24,103,672株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であり、

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、前年度からの政府の経済対策や日本銀行の金融緩和策を背景に、全体としては緩やかな景気回復基調にあるものの、消費税率引き上げ後の個人消費低迷の長期化や円安の進行に伴う物価上昇、海外景気の下振れ懸念などにより、足踏み状態で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、家計への負担感が軽減されない状況から、消費者の節約志向および低価格志向が根強く続く一方で、高付加価値商品へのニーズなど消費の二極化への対応と、フードディフェンスを含めた食の安全・安心への取組強化が求められました。

このような中、当社は平成26年11月に創業90周年を迎えました。当社グループは一貫して、食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足の追求に向けた活動を推進してまいりました。女性の社会進出や、単身・シニア世帯の増加などによるニーズの多様化が進むとともに、お客様による商品の慎重な吟味や選別が行われる中、品質や価値の追求などに機敏かつ柔軟に対応し、きめ細かい店頭フォロー活動や積極的な企画提案型の営業活動、品揃えの強化と魅力のある商品開発を通して、新しい価値の提供に努めてまいりました。

天候不順の影響を受けた品目があったものの、簡便性・個食性などの価値を訴求したパーティ商品や、キャラクターを使用した話題性のある商品、ロングセラー商品への支持をいただいたことなどにより、ビスケット品目が順調に推移し、売上高は前年同期並みの推移となりました。

利益面では、輸入原材料の値上がりなどがありましたが、継続して生産性の向上やコスト低減や経費の効果的使用に取り組んだことから、営業利益、経常利益、四半期純利益とも前年同期を大きく上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は72,304百万円(対前年同期比100.7%)となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレート、チューインガムなどの品目を展開しています。発売40周年を迎えたクレープクッキー「ルマンド」にミルク風味の新味「ルマンド ホワイト」を新たに発売しました。また、お客様からの信頼度の高いロングセラーブランドに加え、新価格帯商品のマイベネフィットシリーズ、簡便性と個食性を備え1本で満足感が得られるパーティ商品「濃厚チョコブラウニー」、人気ディズニーキャラクターの“アナと雪の女王”をデザインした商品などに大変好評をいただきました。一方で、気温が低めに推移した夏場の天候不順の影響を受けて、カップデザート商品や「凍らせて食べるフルじゅら」シリーズなどの需要は伸びませんでした。そのような中、テレビコマーシャルのストーリーをマンガ化して配信するタイアップ企画やWEBサイトと連動してムービーの投稿によるプレゼントキャンペーンの実施など積極的な活性化を図ったことにより、全体では前年同期を若干上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は4,265百万円(対前年同期比95.0%)となりました。

飲料・食品では、粒状ゼリー入りドリンクゼリー「粒ジュレ」が伸び悩みましたが、ココナッツと塩を組み合わせたデザートドリンク「常夏ココナッツミルク」やディズニーキャラクターをデザインした天然水に大変好評をいただきました。機能性食品においては、栄養調整食品「スローバー」シリーズの品揃えを強化し、拡販に努めたことにより好調な推移となりましたが、競争激化の影響からソフトドリンクなどが伸び悩み全体では前年同期を下回りました。

その他品目では、通信販売事業は、“プチクマ”の縫いぐるみと「プチ」シリーズのセットを組み合わせた専用商品など話題性のある商品展開と品揃えの強化に努め、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの展開推進と、設置環境の選択による効率性の向上に取り組み、台数の増加に伴って伸張しました。また、酒類販売事業は、クラフトビールが注目を受ける中、販売ルートの拡大や、輸出、受託生産の増加などにより前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は76,569百万円(対前年同期比100.4%)、営業利益は2,111百万円(対前年同期比182.7%)、経常利益は2,568百万円(対前年同期比155.7%)、四半期純利益は1,543百万円(対前年同期比141.1%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は66,838百万円となり、対前連結会計年度末比3,337百万円の増加となりました。これは主に、季節変動や当四半期末休日の影響による受取手形及び売掛金の増加があったことと、新潟南工場の製品倉庫の増設等による固定資産の増加があったことによるものです。

負債は30,786百万円となり、対前連結会計年度末比1,250百万円の増加となりました。これは主に、季節変動や当四半期末休日の影響による支払手形及び買掛金等の増加があったことと、賞与の支給および法人税等の支払があったことによるものです。

純資産は36,052百万円となり、対前連結会計年度末比2,086百万円の増加となりました。これは主に、四半期純利益の計上とその他の有価証券評価差額金の増加があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは3,936百万円の収入(前年同期2,062百万円の収入、対前年同期比190.8%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2,593百万円、減価償却費2,382百万円があったことと、法人税等の支払1,423百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは3,519百万円の支出(前年同期1,371百万円の支出、対前年同期比256.6%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,716百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは869百万円の支出(前年同期676百万円の支出、対前年同期比128.5%)となりました。これは主に、借入金及びリース債務の返済による支出532百万円と配当金の支払額334百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期連結会計期間末に比べ530百万円増加し、11,819百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ423百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年10月27日の「平成27年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率を使用する方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が938百万円減少し、利益剰余金が604百万円増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,992	11,558
受取手形及び売掛金	12,257	13,926
有価証券	249	360
商品及び製品	3,258	3,455
仕掛品	449	452
原材料及び貯蔵品	2,690	2,855
その他	1,431	1,500
貸倒引当金	△42	△43
流動資産合計	32,287	34,066
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,984	7,549
機械装置及び運搬具(純額)	7,819	8,643
その他(純額)	8,503	9,054
有形固定資産合計	23,308	25,248
無形固定資産		
のれん	1,777	1,691
その他	443	450
無形固定資産合計	2,221	2,142
投資その他の資産		
その他	5,683	5,381
投資その他の資産合計	5,683	5,381
固定資産合計	31,213	32,772
資産合計	63,501	66,838

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,547	11,299
短期借入金	1,825	1,745
未払法人税等	1,010	538
賞与引当金	989	339
返品引当金	57	59
その他	7,828	9,723
流動負債合計	21,258	23,706
固定負債		
長期借入金	535	380
役員退職慰労引当金	191	205
退職給付に係る負債	6,276	5,322
資産除去債務	8	9
負ののれん	26	25
その他	1,238	1,137
固定負債合計	8,276	7,079
負債合計	29,535	30,786
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	7,628
利益剰余金	26,367	28,176
自己株式	△536	△538
株主資本合計	34,495	36,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	356	629
為替換算調整勘定	△612	△666
退職給付に係る調整累計額	△274	△214
その他の包括利益累計額合計	△530	△250
純資産合計	33,965	36,052
負債純資産合計	63,501	66,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	76,274	76,569
売上原価	44,612	45,248
売上総利益	31,661	31,321
販売費及び一般管理費	30,506	29,209
営業利益	1,155	2,111
営業外収益		
受取利息	10	11
受取配当金	76	63
負ののれん償却額	1	1
為替差益	402	372
その他	86	63
営業外収益合計	577	512
営業外費用		
支払利息	41	29
減価償却費	27	15
その他	14	11
営業外費用合計	83	55
経常利益	1,649	2,568
特別利益		
固定資産売却益	24	4
投資有価証券売却益	361	39
特別利益合計	385	44
特別損失		
固定資産処分損	9	13
減損損失	9	4
投資有価証券評価損	21	0
その他	0	—
特別損失合計	39	18
税金等調整前四半期純利益	1,995	2,593
法人税、住民税及び事業税	700	969
法人税等調整額	200	79
法人税等合計	901	1,049
少数株主損益調整前四半期純利益	1,094	1,543
四半期純利益	1,094	1,543

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,094	1,543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	161	273
為替換算調整勘定	△177	△54
退職給付に係る調整額	—	60
その他の包括利益合計	△16	279
四半期包括利益	1,077	1,823
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,077	1,823
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,995	2,593
減価償却費	2,546	2,382
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△87	△75
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	41	29
為替差損益(△は益)	△352	△353
投資有価証券売却損益(△は益)	△361	△39
固定資産処分損益(△は益)	△15	9
減損損失	9	4
投資有価証券評価損益(△は益)	21	0
売上債権の増減額(△は増加)	△384	△1,663
たな卸資産の増減額(△は増加)	177	△361
仕入債務の増減額(△は減少)	585	1,749
賞与引当金の増減額(△は減少)	△641	△650
その他	△226	1,605
小計	3,393	5,315
利息及び配当金の受取額	85	73
利息の支払額	△41	△29
法人税等の支払額	△1,374	△1,423
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,062	3,936
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,888	△3,716
有形固定資産の売却による収入	66	113
投資有価証券の取得による支出	△123	△73
投資有価証券の売却による収入	1,052	228
定期預金の払戻による収入	500	—
その他	21	△71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,371	△3,519
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△170	—
長期借入金の返済による支出	△227	△234
リース債務の返済による支出	△313	△298
配当金の支払額	△308	△334
自己株式の処分による収入	344	—
その他	△2	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△676	△869
現金及び現金同等物に係る換算差額	52	29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	67	△423
現金及び現金同等物の期首残高	11,220	12,242
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,288	11,819

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。